

五年 浮船 凜

言葉だけではない『ありがとう』

初めに、みなさんには心に余裕がありますか。私は、このチャレンジを通して、さらに心に余裕を持つようになりました。その理由は二つあります。

一つ目は、私が行ったチャレンジについてです。私は日ごろから、点滅している信号を急いで渡ろうとする人をよく見かけていました。自分自身も急いでしまうことが度々あります。そこで、父母と相談し、「信号が点滅し始めたら、横断歩道を渡らない。」という目標を立てました。この目標を意識していると、「少し待てば安全に渡れるよね。」と考えることが出来るようになりました。以前のように、「赤になる前に急いで渡らないと。」という危険な考えをなくすることができたのです。

二つ目に、私は時間に追われることなく過ごすためには、どうすれば良いのかと考えました。そして、「時間に余裕を持って、家を出れば良いのかと考えました。」と気付きました。この気付きは当たり前のことかもしれませんが、そんな当たり前のこと

に気付くことが出来る絶好の機会だったと思っっています。このような二つの理由から、私の心にゆとりや余裕ができました。

次に、私は事故にあわないために、交通事故を減らす取り組みについて考えました。

信号を守ることはもちろん、歩道がない道路では交通標識をよく見て、歩こうと思います。そして、交通事故の現場では、運転手さんがパニックになってしまうことをニュースで知りました。そこで、普段から運転手さんを安心させるために、道を譲ってもらったら、おじぎをしようと思います。このおじぎには、言葉だけではない「ありがとう」がこもっています。以前、私がおじぎをしたとき、運転手さんが笑顔を返してくれたことがありました。運転手さんの心が温まれば、安心して安全運転ができると思います。交通事故を減らすために、私はこれからも言葉だけではない「ありがとう」を伝え続けようと思います。